

教育支援センターだより

幼児教育の現場経験を生かして

教育支援センター 特任教員 河本 佳代

新緑がまぶしい季節となりました。大学には皆さんの明るい声が響き、教育支援センターにも、実習や実地体験活動の準備、活動後の振り返りのため、多くの学生が訪れています。

私は教育支援センターに昨年度から勤務し、一年が経ちました。これまで幼児教育の現場で培ってきた経験を生かし、現在は、実地体験活動や教育実習に関わる学生の皆さんへの指導・支援を行っています。

実地体験活動を終えた学生たちとは、活動後の記録をもとに、現場での経験を一緒に振り返っています。「行ってよかった」という声も多く聞かれ、学生たちは様々な学びを得ています。

振り返りの中で学生は、保育者の言葉かけや教材の選び方、環境づくりの工夫に触れ、「一つ一つに意図があり、それが子どもの姿につながっている」と気づいたり、子どもと心が通じ合った瞬間の喜びを語ってくれたりしました。一方で、子ども同士のトラブルへの対応では、「どうすればいいのか」と迷った学生や、「もっとこうすればよかった」と振り返る学生もいました。

このように、思いがけない子どもの動きや言葉にどう対応すればよいのか戸惑ったり悩んだりすることもあるかと思います。しかし、学生の皆さんが自分の課題に気づき、自ら解決策を見出していく、その積み重ねこそが、保育者として必要な力を高める契機になります。

ぜひ、子どもたちと触れ合う様々な活動や時間を大切にしてください。子どもとの関わりには、驚きや発見があふれています。子ども一人一人の姿を見据えつつ、「次はどんな教材を準備しよう」「あの子にはどう関わろうか」と思いを巡らせながら準備をする時間や、その準備が子どもの笑顔につながった時の喜びは、皆さんにとって大切な経験になることでしょう。

今後も、大学で学ぶ知識と現場での体験を結びつけながら、「子どもってすごい」「保育っておもしろい」と実感できるように、学生の皆さんと一緒に振り返る時間を大切にしたいと思います。

本学の理念を象徴する「知は明日を開く」には、学びを通して人が成長し、未来を切り開いていくという願いが込められています。

教育支援センターでも、一人一人の学びを大切にしながら、未来へつながる実践的な力を育んでいけるよう、力を尽くしていきたいと思っています。

